

事例

地域の食文化の継承（第35回国民文化祭・みやざき2020）

文化庁では、都道府県等と共催で、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典として、「国民文化祭」を昭和61（1986）年から毎年開催しています。

令和2（2020）年度に予定されていた「第35回国民文化祭・みやざき2020」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3（2021）年7月3日～10月17日（107日間）に延期することとし、令和2（2020）年度はコロナ対策等を実施した上で「国文祭・芸文祭みやざき2020 さきがけプログラム」として一部事業を先行実施しました。本プログラムにおいて、宮崎の豊かな食材や古くから伝わる食文化にフォーカスを当てた以下のような事業を実施し、地域の食文化の魅力を再認識する機会となりました。

○サチタビ（幸旅）

宮崎の海の幸・山の幸を味わうツアー。参加者は、食の現場で活躍する人々を通じ、食文化の継承や新しい食文化の創造に取り組む人々の情熱を実際に体感しました。

・「家族みんなで大漁！串間・海の幸ツアー」（10月）

自然豊かな宮崎県串間市で、定置網漁等を通じて食や人、命のつながりを体験し、串間市の魅力を満喫するツアー。

・「都農ワイン～ルーツを学んで味わい楽しむツアー」（11月）

ブドウづくりに向かないとされた土地（宮崎県都農町）で自然と向き合い、国際的に評価されるワインを作り上げた歴史について学んで、飲んで、楽しむツアー。



定置網漁の様子

○ひなたのめぐみ大学校

宮崎の食にまつわる歴史や生活文化等について、講話や体験等を通じて学ぶことができるツアー。参加者は、世界農業遺産にも認定された「高千穂郷・椎葉山エリア」で、人々の暮らしを支えた文化を学びました。

・「森の恵み～命を頂く山里の狩猟文化」（11月）

日本三大秘境の村のひとつとして知られ、豊かな山と美しい川に囲まれた宮崎県椎葉村において育まれてきた狩猟文化等を通じ、「豊かに暮らす」ことの大切さを学ぶツアー。

・「みやざき究極の蕎麦をもとめて」（11月）

世界農業遺産に登録された高千穂郷・椎葉山地域の5町村（高千穂町、椎葉村、諸塚村、日之影町、五ヶ瀬町）をめぐり、高千穂郷・椎葉村では焼き畑や高冷地を利用した在来蕎麦、諸塚村では出汁の決め手となる乾燥シタケ、日之影町では薬味用のゆず胡椒、そして五ヶ瀬町では名水百選の湧水などの至高の蕎麦の材料を集めて「究極の蕎麦づくり」を体験するツアー。



在来蕎麦